

招 へ い 研 究 者 報 告 書

招へい研究者氏名	The Hong Kong Polytechnic University LI, Shaofeng 教授			
招へい期間	(西暦) 2025年6月10日～2025年6月30日			
受入機関	関西大学外国語学部			
受入担当者	所 属	外国語学部・ 外国語教育学研究科	資 格	教授
	氏 名	新谷奈津子		

講演会実績

○研究者向け講演会タイトル：Individual Differences and Task-Based Language Teaching

○日時：2025年6月18日（水）18:00～19:30

○概要：本講演では、タスク基盤言語教育（TBLT）における「学習者の個人差（Individual Differences:ID）」について、理論・研究・実践の観点から包括的に論じられた。まず、第二言語習得における個人差の範囲と分類が整理され、さらにTBLTにおける理論的モデルが提示された。その中で、タスクIDのパラメータ、暗黙的IDの有用性、タスクIDの動的性、IDの適用範囲の拡大、そしてIDと指導法の相互作用研究の重要性が強調された。続いて、感情・言語能力・動機づけ・ワーキングメモリといった主要な個人差要因に関する実証研究が紹介され、研究方法や成果が示された。その上で、教育実践に対する具体的な提言が示され、(1) 学習者の特性の把握と変容、(2) 個人差の影響を軽減または相殺するための指導の工夫、(3) 学習者プロフィールと教授法の適合、(4) ハイブリッド型指導の活用、(5) 学習者への選択肢提供、といった五つの視点からの実践的示唆が提示された。講演は、個人差研究の理論的背景と最新の实証成果を体系的に整理するとともに、それを教育実践に結びつける具体的提案を含む内容であった。TBLT研究と第二言語教育の架橋を考えるうえで、多くの研究者にとって有益な示唆を提供する貴重な機会となった。

○学生向け講演会タイトル：Language Aptitude: Theory, Research, and Practice

○日時：2025年6月23日（月）16:20～17:50

○概要：本講演では、言語適正（language aptitude）研究の理論・測定・実証的成果について、包括的かつ体系的な整理が行われた。まず、従来の研究で支配的であった明示的（explicit）適正の理論と測定が概観され、その上で、近年注目を集める暗示的（implicit）適正との違いが明確化された。特に、暗示的適正の収束的・発散的・予測的妥当性に関する研究成果が提示され、第二言語習得研究における新たな構成概念としての位置づけが示された。さらに、これまでのメタ分析・実証研究・特集号での成果を総合し、研究上の課題を明確化するとともに、今後の方向性を提案した。最後に、言語適正研究が第二言語教育・学習・評価に与える含意が論じられ、教育実践への応用可能性が示唆された。講演は、言語適正研究の伝統的枠組みと新しい展開を整理するとともに、それを第二言語教育の実践に接続する視点を提示する内容であった。質疑応答のセッションでは活発な議論が展開された。